

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との見えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2370800795
法人名	社会福祉法人しあわせあつくん
事業所名	グループホーム大喜
訪問調査日	平成 20 年 8 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 12 日
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年8月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2370800795		
法人名	社会福祉法人しあわせあつくん		
事業所名	グループホーム大喜		
所在地	愛知県名古屋市長区瑞穂区大喜町2-79 (電話) 052-889-2555		
評価機関名	社会福祉法人愛知県社会福祉協議会 施設福祉部		
所在地	名古屋市中区丸の内2-4-7		
訪問調査日	平成20年8月25日	評価確定日	平成20年12月12日

【情報提供票より】 (平成20年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年7月1日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計 9人
職員数	12人	常勤 5人, 非常勤 7人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	4階建ての	2 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000~100,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 0円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年7月31日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	5名	要介護4	0名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 83.9歳	最低 79歳	最高 91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	成田外科
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「一人の人を大切に最期まで関わり続けたい」という理念を実践しており、3年間で2度の終末ケアを経験している。食事が取れなくなった方に少しでも口にしてもらいたいと職員たちが様々な料理を作ったこと、1日でも長く生きて欲しいと願う家族と本人との間で職員たちの気持ちが揺れ動いたことなど事業所として多くのことを学び、この経験を次に活かし更に良い終末ケアをと意欲的である。その時々の入居者一人一人の状態に合わせ共用スペースの使い方を変えたり、介護について記入する様式を変えたりと改善を続けており、デイサービスからの応援スタッフも含め“チーム大喜”が上手く機能している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>運営者、管理者は昨年の評価の改善点をスタッフミーティングなどで検討し、家族会を立ち上げ、地域包括センターに働きかけ、介護計画書を見直すなど改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員が評価項目毎に分担して記入し職員達で纏め上げ、評価という機会を日々のサービスに活かそうという姿勢である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は入居者家族、地域代表(隣人)、学識経験者の参加を得て2ヶ月に1回開かれている。ホームでの日々の暮らしを伝え意見や要望をくみ上げており、サービス向上に活かしている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>週に1回家族が訪問することを原則としているのでその折、入居者の近況報告や金銭出納の確認等をしている。訪問の間が長くなった家族には事業所から電話を入れて、関係が薄れない努力をしている。家族会などではリラックスした雰囲気の場を作り不満や苦情をくみ上げ、運営に反映させようという取り組みをしている。</p>
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	<p>地元の高齢者にも当事業所が持つノウハウを提供し、貢献したいと考えており、地域に溶け込む工夫を様々試みてきたが、分別ごみの集積場所の作業に関わることで糸口を見出すことができ、地元の人々と交流が深まってきている。介護に関わる問い合わせや相談の電話が度々かかってきており誠意ある対応をしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	最期まで地域でその人らしく暮らし続ける支援がしたいと「一人の人の最期まで関わり続ける」を事業所の理念に掲げ、実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々入居者に関わる際に、理念を運営方針や目標に具体化して共有を図り、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に溶け込む工夫を様々試みてきたが、分別ごみの集積場所の作業に関わることで糸口を見出すことができ、地元の人々と交流が深まってきている。	○	地元の高齢者にも当事業所が持つノウハウを提供し貢献したいと考えており、老人会への入会を希望しているので、実現が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員が評価項目毎に分担して記入し職員達で纏め上げた。運営者、管理者は昨年の評価の改善点をスタッフミーティングなどで検討し、家族会を立ち上げ、地域包括支援センターに働きかけ、介護計画書を見直すなど改善に取り組んでいる。	○	地域との付き合い、行政との関わり、避難訓練など計画（9月実施予定）の改善点の速やかで確実な対応が望まれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者家族、地域代表（隣人）、学識経験者の参加を得て2ヶ月に1回開かれており、ホームでの日々の暮らしを伝え意見や要望をくみあげており、サービス向上に活かしている。	○	地域包括センターからの出席も約束が交わされており益々の発展が期待されるが、民生委員にも関わってもらえるような働きかけも望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設についての解釈など折に触れ市の考えを問い合わせ、より良いサービスに向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	週に1回家族が訪問することを原則としているのでその折、入居者の近況報告や金銭出納の確認等をしている。訪問の間が長くなった家族には事業所から電話を入れて、関係が薄れない努力をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に当施設相談窓口電話と共に、区役所と愛知県国民健康保険団体連合会の電話番号を記し、契約時に説明をしている。また、家族とカラオケに行くなどリラックスした雰囲気の中で不満や苦情をくみ上げ、運営に反映させようという取り組みをしている。	○	重要事項説明書に窓口担当者名及び第三者委員を明記することが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設3年で4人の常勤者が退職しているが、補充は主に同法人のデイサービスからで入居者には十分に顔なじみで、新職員も入居者の理解が深まっていることが殆どなので、ダメージは少ない。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者と管理者は当事業所の方針を理解し、ケアの実践が出来る人材を育てることを大切に捉え、外部研修を組み入れている。また、自身が現場で対処の模範を示し、ケアのスキルを高めることに努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とのネットワークは出来ていないが、機会を捉え相互訪問をしている。また、地域の宅老所と交流し共に学びサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同法人内のデイサービスの利用者だった人には、デイサービスに行くことを継続しながら馴染んでもらったり、家族に度々訪問してもらうことを契約時に条件づけて、利用者が寂しい思いをしないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出身地のことを度々口にする入居者とは地図を開き、その土地の気候風土、習慣、昔の暮らしぶりを聞いて知識を深めている。入居者それぞれと一緒に懐かしがったり笑ったりと楽しい時間をつくりだし、共に支えあえる関係づくりに留意している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らすことを大切にしているので、過去には喫煙や飲酒の希望を事業所内で支援した経験を持ち、今後も要望があれば支援する姿勢を持っている。日々のバイタルチェック時も本人の関心度にあわせ結果の伝え方を工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	週に1回程度来訪する家族に暮らしぶりや日々のケアの中での気づきを伝え、家族の希望を聞き出し介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直しをしているが、介護計画の実践が出来ているか毎日チェックシートを使い確認し、変化に気づきやすい仕組みを作っているので家族や必要な関係者と話し合いがしやすく、すばやい対応で現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や外出支援、行政手続の代行、医療連携体制による医療面の強化等に柔軟に対応している。また、同法人のデイサービスに、引き続いて通いたいと言う本人の希望をかなえている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は全入居者が当事業所の協力医療機関から月2回の往診を受けている。夜間の緊急時にも対応してもらい、適切な医療が受けられる環境を整えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の指針」を契約時に説明し、重度化した場合の対処について家族や本人の希望を確認し、文書にしている。すでに2人の看取りをしており、運営推進会議で報告し家族、かかりつけ医、学識経験者からの意見も聞き、この経験を次に活かせるよう全職員で検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	一人ひとりその人に馴染みやすい言葉や敬語を吟味して使い分けている。また、入居者の前では職員は他の入居者をイニシャルで表現し、プライバシーに配慮している。排泄記録などは目に付きにくい場所に置いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や喫茶店など外に出かけることを大切にしているが、無理強いせずその時の気持ちを尊重するようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配食サービスの利用をしているが、味噌汁やご飯はホームで作り、炊ける匂いで「食事」を知らせている。一人で食べたい人、仲間で食べたい人、食事介助が必要な人とそれぞれの希望をかなえるためテーブルの形や配置に工夫をしている。食が進まない人にはふりかけをかけたたり、おにぎりにしたりと気配りされている。食器洗いや食器拭きには入居者も携わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば夕食後の入浴にも対応しており、入る時間が決まってしまうような、その日の気分を大切にしたい支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	男性入居者の楽しみごとを失わないよう全職員が基の打ち方をマスターしている。また、手作業で小物を作ることをレクリエーションにとりいれ、女性入居者の楽しみを提供している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出ることを楽しみにしている入居者が多いため、希望に沿って散歩や喫茶店に出かける支援を大切にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解し、行政に判断を仰いでいる。グループホーム内の施錠はなく、センサーのチャイムで入居者の動きを確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	広い民家を改装した建物の2・3階にあるため、火災時の避難について「布団に人を乗せて避難場所まで引っ張る」など職員間で実践や検討を進めているが、入居者と共に避難訓練をするには至っていない。隣人が運営推進会議に参加しており、地域の協力が得られるよう働きかけている。	○	1階の他事業所と合同で入居者と共に避難訓練をする計画（9月実施予定）を進めている。消防署にも協力を仰いで専門家の意見を取り入れることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食の摂取量は日報に記録をしている。水分を取りにくい入居者には1リットルのペットボトルに水を入れ、ジュースなどで水分摂取ができた量を捨てていき、どの職員も水分摂取量が目視できるようにして、1日に1リットルの水分摂取を根気よくうながしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には東・南・西に大きな窓があり開放感がある。カーテンや遮光シートを用い朝日や西日対策をしている。静かな住宅街に立地しており、耳障りな雑音はない。居間の西側テラスに季節に応じたガーデニングを実施している。玄関前に鉢植えを設置し、外出時などに入居者が水をあげるなど育てる楽しみを取り入れている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理たんすや本箱などそれまでの暮らしで使い込んできた家具を持ち込んでいる部屋が多く「個性的な自分の部屋作り」ができている。居室内側からドアの施錠ができ、夜間巡回の職員には負担が大きいが本人にとっては居心地の良い空間になっている。		

※  は、重点項目。